

京都観光イメージ構造の空間布置に関する基礎分析 On Positioning of Image of Kyoto as A Sightseeing City

西井 和夫**、川崎 雅史***、棚橋 美佐緒****、酒井 弘

By Kazuo NISHII **, Masashi KAWASAKI ***, Misao TANAHASHI ****, and Hiroshi SAKAI *****

1. はじめに

都市のイメージは、それを構成する自然地物や風土的因子からなる文化的・社会的イメージとしてとらえることができ、これからの都市づくりや魅力創出を考える上での基本コンセプトを明らかにすることにも大きくかわる¹⁾。

本研究で取り上げる都市は「京都」であり、ここでの切り口は、わが国を代表する観光都市としての京都の顔（イメージ）である。なお、ここで観光都市とは、都市規模が比較的大きく社会経済的都市活動水準も十分高く、しかもエリア内に集客性の強い観光スポットをもつ都市を指す。

本論文では、この「京都」への観光行動を取り上げ、構成地物間の類似度評価データにもとづき、京都観光イメージ構造の特徴を把握することを目的とする。本研究全体の流れを図-1に示すが、本論文は、これに続く観光客の京都周遊行動パターンとの関連分析とともに、これからの観光都市「京都」にとっての望ましい観光施策の基本コンセプト提示のための基礎的検討と位置づけられる²⁾。

2. 京都観光イメージ調査の概要

(1) 調査の全体構成

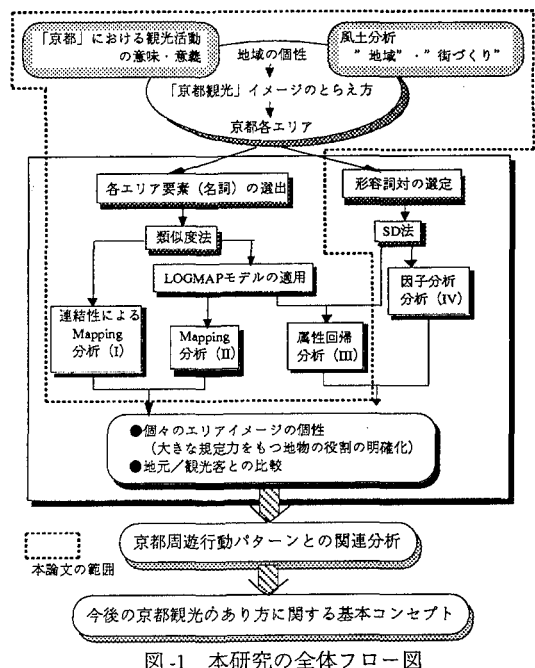
本研究におけるイメージ調査では、観光都市のイメージ形成とその空間布置のパターンの計量化を目的とする。そのため、著者らによる従来の地域イメージ構造分析^{3) 4) 5)}における方法論を踏襲できると

考えた。すなわち、図-1の全体フロー中にある各構成地物間の類似度評価データとSD法による形容詞対評価データを収集する。このとき、京都観光イメージのとりえ方として、

- 京都全体及び市内各エリア単位の区分
- 観光客と地元（住民）との層別化
- 調査対象地物の選定のための予備調査実施

といった諸点を前提とすることにした。

また、これらイメージ調査データに関する分析手法としては、構成地物の空間布置座標を類似度評価データより求めるLOGMAPモデル、そしてSD法の形容詞対評価を被説明変量とし、LOGMAPモデルの座標値を説明変量とする属性回帰分析の2つを用いることとする。なお、これに関連して構成地物間イメージの連結性ならびに想起率を用いた集計分析が前段階においてなされる。



Keywords：イメージ分析、意識調査分析

** 正会員 工博 山梨大学工学部土木環境工学科
(山梨県甲府市武田4-3-11、Tel & Fax. 0552-20-8533)

*** 正会員 工博 京都大学工大学院工学研究科

**** 学生員 山梨大学大学院土木環境工学専攻

***** 正会員 (社) システム科学研究所

(2) イメージ調査の実施

本調査は、観光ガイドブック・名所案内等の資料をもとに京都観光の代表的な観光スポットをカバーできる京都市域（一部宇治市を含む）を対象とし、その中を洛東・洛西・洛南・洛北・洛中の5エリア及び全体に分け、各エリアごとに調査を実施した。

本研究では、本調査に用いる構成地物の選定を行うため、まず事前に予備調査を実施した。この予備調査（1996.10）では、各エリアにおける構成地物を中心に、自然地物・地名、観光スポット、観光イベント、都市・交通施設、その他（観光活動に関連地物）の5ジャンルごとに合計180個前後を抽出し、これから各被験者に、各エリアに関係深い構成地物を各ジャンル5個程度ずつ選定させた。また同時に、「京都観光イメージ」について、SD法により12個の形容詞対の7ランク評価も回答させた。これにより、被験者による指摘数をもとに各エリアごとに構成地物を30個前後に絞り込み、各エリアの本調査に用いる名詞を決定した。なお、予備調査の被験者は、京都観光入込数の約7割が近隣府県者であることを考慮して、京都、大阪、神戸に在住する就業者および山梨県在住の就業者約500人を抽出した。

本調査（1996.11）は、構成地物類似度調査とともに、各エリアを代表する5個程度の『構成地物のイメージ』ならびに『各エリアイメージ』について、6個の形容詞対によるSD法調査を行った。この調査では、観光客と地元の人々の京都観光イメージのとらえ方の違いも把握するため、地元サンプルとして観光地エリアでの商店従業者ならびに、京都市職員に対しても観光客と同様の調査を行った。表-1は、得られた有効サンプル数を各エリアごとに示す。

3. 京都観光イメージ構造の特徴

表-1 京都観光イメージ調査におけるサンプル数

予備調査	洛東	洛西	洛南	洛北	洛中	全体
設定した名詞の数	189	182	171	183	185	
サンプル数	77	85	80	86	81	
本調査	洛東	洛西	洛南	洛北	洛中	全体
選定された名詞の数	30	32	31	31	31	32
サンプル数（観光客）	72	66	88	63	49	58
（地元）	58	54	70	75	62	54

本論文では紙面の都合により京都全体イメージに関する結果の一部を以下に示し、イメージ構造の特徴を観光客と地元との比較を通じて明らかにする。

(1) 想起率にもとづく代表的構成地物

ここでは、本調査の中で、形容詞対評価の対象として被験者に回答させた構成地物の出現回数・出現率を、想起数・想起率として、次式で定義する。

$$\text{想起率} = \frac{\text{各構成地物の想起数}}{\text{全構成地物の想起数の合計}}$$

表-2は、京都全体イメージにおける想起率の順位を示す。これによると上位15位までは、観光客と地元の構成はほとんど同じである。例外としては、「湯豆腐」（観光客13位・地元23位）があげられる。またその他では、「時代祭」（観光客17位・地元30位）「京漬物」（観光客26位・地元16位）が異なっている。次に、名詞のうちで自然地物や地名など以外のコト・イベントについて比較して見ると「祇園祭」（観光客1位・地元4位）、「大文字五山送り火」（観光客4位・地元8位）、「舞妓」（観光客8位・地元6位）、「紅葉」（観光客16位・地元11位）となっており、「湯豆腐」、「時代祭」と類似しており、これらは全体イメージへの規定力が大きいことがわかる。

表-2 京都全体イメージに関する想起率の比較

（観光客 VS 地元）

（観光客・サンプル数54）				（地元・サンプル数58）			
順位	名詞	想起数	想起率(%)	順位	名詞	想起数	想起率(%)
1	祇園祭	27	10.00	1	祇園	27	9.31
2	嵐山	24	8.89	110	清水寺	27	9.31
2	清水寺	24	8.89	3	嵐山	24	8.28
4	大文字五山送り火	23	8.52	415	祇園祭	19	6.55
5	2 祇園	22	8.15	511	金閣寺（鹿苑寺）	17	5.86
6	京都御苑（御所）	14	5.19	627	舞妓	16	5.52
6	金閣寺（鹿苑寺）	14	5.19	7	7 大原	14	4.83
8	舞妓	13	4.81	8	京都御苑（御所）	13	4.48
9	7 大原	12	4.44	816	大文字五山送り火	13	4.48
10	鴨川	11	4.07	10	5 東山	12	4.14
11	9 平安神宮	9	3.33	11	鴨川	11	3.79
11	3 千院	9	3.33	11	3 千院	11	3.79
13	5 東山	7	2.59	11	32 紅葉	11	3.79
13	銀閣寺（慈照寺）	7	2.59	14	9 平安神宮	9	3.10
13	湯豆腐	7	2.59	15	12 銀閣寺（慈照寺）	8	2.76
16	32 紅葉	6	2.22	16	28 京漬物	6	2.07
17	3 新京極	5	1.85	17	3 新京極	5	1.72
17	時代祭	5	1.85	18	18 都をどり	4	1.38
17	京漬物	5	1.85	18	23 河原町通	4	1.38
20	18 都をどり	4	1.48	18	24 京都タワー	4	1.38
20	24 京都タワー	4	1.48	18	29 京懐石	4	1.38
22	22 四条通	3	1.11	22	19 鞍馬火祭り	3	1.03
22	京都駅	3	1.11	23	6 伏見	2	0.69
23	河原町通	2	0.74	23	13 伏見稲荷大社	2	0.69
26	6 伏見	1	0.37	23	22 四条通	2	0.69
26	13 伏見稲荷大社	1	0.37	23	30 湯豆腐	2	0.69
26	28 京漬物	1	0.37	23	31 西陣織り	2	0.69
31	20 清盛送り万灯流し	0	0.00	28	21 宇治川の鶴飼	1	0.34
31	25 京都市営地下鉄	0	0.00	28	26 京都駅	1	0.34
	合計	268		30	17 時代祭	0	0.00
				30	20 清盛送り万灯流し	0	0.00
				30	25 京都市営地下鉄	0	0.00
					合計	274	

(2) イメージ連結図による地物間関係

ここでは、前述の調査で得られた類似度データを用いて、構成地物間のイメージの連結度を連結数を用いて京都全体のイメージ連結図を作成した。図-2(観光客)、図-3(地元)は、連結の強さを矢印の太さによって示し、地図上と同じ位置関係に構成地物を配置し、構成地物間、イベント・コト間の連結は実線で、構成地物-イベント・コト間の連結は破線で示している。

これより、観光客の方で連結数30以上の太線の連結アークが21本と多く、一方地元は12本と少ない。観光客側でのみ太線となっているのは、「金閣寺-銀閣寺」、「新京極-河原町通」、「新京極-四条通」、「都をどり-祇園」、「京都タワー-京都市営地下鉄」、「京都駅-京都市営地下鉄」、「御所-時代祭」、「東山-清水寺」の8本である。これらは、いずれも代表的な観光客のツアーコースの組み合わせを示しており、メディアイメージ形成の強い影響を物語っている。また、イベント関係では、「都をどり」、「時代祭」が観光客にとってのイメージ形成に果たす役割が大きい。地元における連結パターンはやや分散し、多くの構成地物間でイメージの類似関係を認識しているといえる。

(3) 属性回帰分析による空間布置

LOGMAPモデルの適用方法の説明は、紙面の都合で省略するが、ここでは、京都全体イメージに関し

て、「重厚な-軽快な」評価軸に対する属性回帰の結果を紹介する。

この結果を示す前に、イメージ評価軸について言及しておく。今回の京都観光イメージにおいては、従来の地域イメージ調査事例を参考に、本調査で用いる形容詞対を図-4に示す6つに絞り込んでいる。図-4は、各5エリア及び全体の形容詞対評価の平均値を示す。これより、京都全体イメージは「張りつめた-ゆったりした」以外の5つの形容詞対評価で他の5エリアの平均値の上限値(or下限値)を超えている。すなわち、京都全体イメージは、全エリアの中で最も「優雅な」、最も「重厚な」、最も「格調高い」、最も「しとやかな」、最も「女性的な」イメージが形成されているといえる。

LOGMAPモデルでは、空間布置をRank - Ordered Logit Modelにより求める。一方、属性回帰分析は、これらの空間座標値を説明変数として、構成地物の形容詞対評価値の平均値を被説明変数とする。このとき属性回帰の適合性は、空間座標値及び形容詞評価値の両者の信頼性の度合に依存する。この対処の方法については既存の方法⁶⁾⁷⁾を用いることとし、図-5に示すように観光客及び地元に対する構成地物の空間布置を求めることができた。これより、評価軸上で大きく他と離れて位置する名詞(「京都駅」、「京都タワー」)は形容詞対評価が個人間でばらつきが大きく、属性回帰のパラメータ推定段階では除外されたものである。

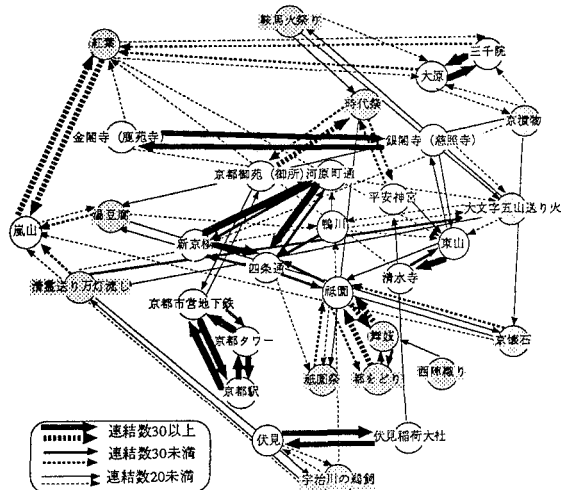


図-2 イメージ連結図(京都全体・観光客)

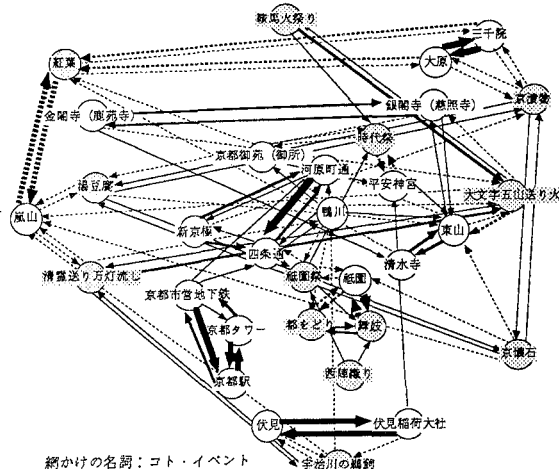


図-3 イメージ連結図(京都全体・地元)

観光客と地元との比較においては、まず全体的にみて、両者とも飛び値的に布置された例外的名詞を除いて「やや重厚な」や「軽快な」の範囲内に布置されているといえる。想起率上位10位までの代表的な地物の軸上の位置関係を眺めると、「清水寺」、「祇園」、「嵐山」、「祇園祭」などの名詞は、やや重厚な位置に共通して布置されており、観光客及び地元の差異はない。一方、イメージ連結図で連結関係の強さに差異がみられたいくつかの地物について見ると、「金閣寺」と「銀閣寺」に関して言えば、観光客がほとんど同じ位置にあるのに対し、地元の方はやや離れて布置されており、両者のイメージ評価の差が現われている。また、これら以外の「新京極」と「河原町通」、「時代祭」と「京都御苑」などのケースでは、両者に差異はなく、イメージ連結性の程度の違いにとどまっているといえる。

4. おわりに

本研究は、京都観光イメージ構造の空間布置を知覚マップ手法を用いて計量的に把握することを目的として、そのためのイメージ調査の概要ならびにこの方法論を適用した結果の一部としての「京都全体イメージ」に関するイメージ構造上の特徴を、観光客と地元との比較を通じて考察したものである。本調査では、各エリアごとにこうした方法論の適用を予定しており、それらの結果を踏まえた上で、京都

観光イメージ構造の全体像が明確にできると考えられる。これらの検討結果については、講演時に発表する予定である。

〈参考文献〉

- 1) 西井和夫：地域イメージとその構成に関する風土分析手法、土木計画学研究・講演集、No.14 (1)、pp.213-220、1991
- 2) 西井和夫：これからの観光交通計画の課題、交通工学、vol.31、No.5、pp.3-8、1996
- 3) 西井和夫、鈴木康仁、古沢経夫：地物の類似度に着目した地域イメージ構造分析：甲府と東山梨への適用、山梨大学工学部研究報告、No.42、pp.105-114、1991
- 4) 土井勉、三星昭宏、北川博巳、西井和夫：関西私鉄三沿線における地域イメージの構造把握に関する研究、第29回日本都市計画学会学術研究論文集、pp.565-570、1994
- 5) 土井勉、木内徹、三星昭宏、北川博巳、西井和夫：鉄道沿線における地域イメージの構造に関する研究、土木計画学研究・審査付論文、No.12、pp.367-374、1995
- 6) 西井和夫、土井勉、木内徹、三星昭宏、三浦啓江：LOGMAPにおける属性回帰に関する実証的検討：鉄道沿線イメージ分析を例として、土木計画学研究・講演集、No.18、pp.27-30、1995
- 7) 西井和夫、土井勉、三浦啓江、棚橋美佐緒：鉄道沿線イメージ構造把握のためのLOGMAP：属性回帰に関する実証的研究、土木計画学研究・審査付論文、No.13、pp.49-56、1996

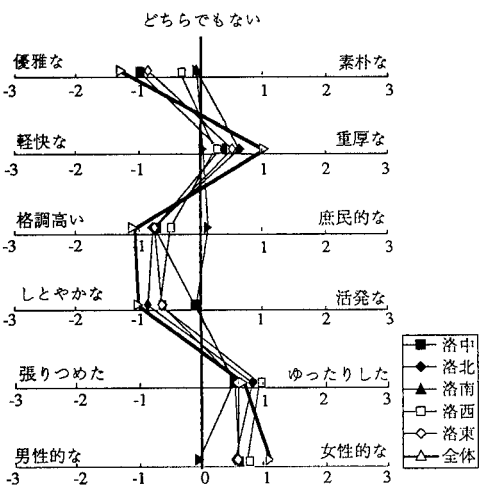


図4 形容詞対評価によるエリアイメージのプロフィール

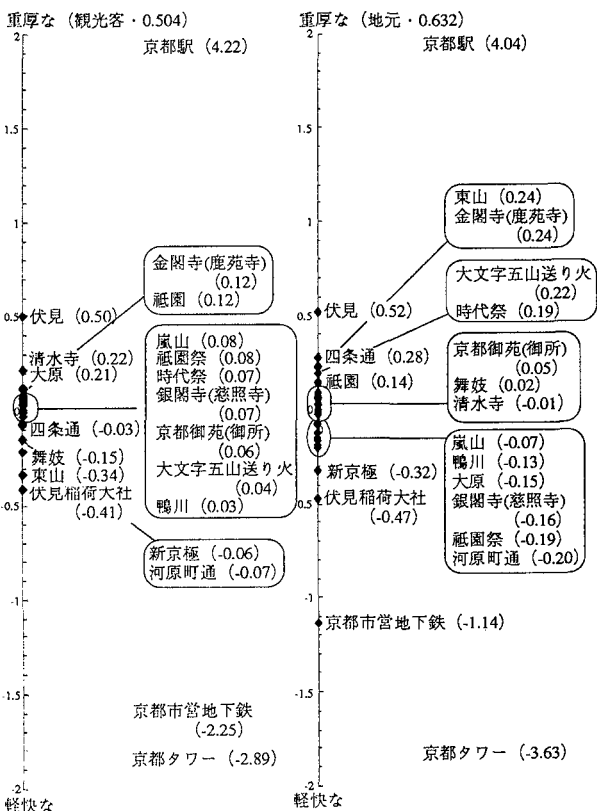


図5 属性軸上への空間布置の比較 (全体)